

当院におけるリコール管理について
—特にMSBBを用いて—

○中野かおり、宮本由美子、柏木伸一郎
立川 義博*、中田 稔*
小児歯科柏木医院、*九大・歯・小児歯

小児歯科で行われるリコール管理は、患者の齲蝕罹患傾向を把握した上で行う必要がある。当院でも、初診時の口腔内状態によるリスク分けを行い管理を続けてきた。しかし、年々新患の低年齢化が進み、初診時に齲蝕がなく、予防を主訴として来院する患者が増えてきたため、口腔内状態だけでは将来の齲蝕罹患傾向を予測することが難しくなってきた。そこで齲蝕活動性試験によるリスク分けについてMSBB（ミュウカウント：昭和薬品化工社製）を用いて調査し、その結果を第9回日本小児歯科学会九州地方会において報告した。

今回は、初診時年齢1.2.3才児に対して処置終了時にMSBBによる患者のふり分けを行い、MSBBの値が（十）（十十）となった患児をハイリスクとした。ハイリスクに対する指導は、その子の問題点とMSBB値の変化を考慮して行った。

その結果、これらの指導がどの程度効果を上げているか、検討したので報告する。また、今後の指導の充実のために、母親に対する意識調査も行ったので合わせて報告する。

カリエスフリー児におけるカリオスタット値と齲蝕発生率の関連について

○寺田ハルカ 緒方克也
福岡市 緒方小児歯科医院

齲蝕活動性試験の結果と齲蝕発生との関連については、これまでに多くの研究がなされてきた。研究の多くは、齲蝕活動性試験の結果が齲蝕の発生に大きく関与していると報告している。

そこで今回私たちは、齲蝕罹患を予測し効果的な保健指導を行うことを目的に、3歳未満のカリエスフリー児のカリオスタット値を測定し、約3年後の齲蝕発生状態を追跡調査した。

調査の対象は、当医院に来院している患者の中から、乳歯列完成のみられた3歳未満児で当時齲蝕発生がみられなかった小児とした。

調査方法は、まず対象児のカルテから3歳未満時のカリオスタット値を調べた。次に、同一者の3年後のカリオスタット値・齲蝕の有無・齲蝕の部位を調査した。

結果は、3歳未満時にカリオスタット値が（一）であっても、およそ3年後にはその間に管理を行ったにもかかわらず、齲蝕の発生をみた症例がみられた。発生した齲蝕は、乳臼歯部隣接面での発生が多く、隣接面齲蝕予防の困難さがあらためて問題となった。

以上の調査結果から、カリエスフリー児におけるカリオスタット値と齲蝕発生率の関連について若干の知見を得たので報告する。